

室蘭工業大学-学報

NO.673



室蘭工業大学公認サークルSARDが国際大会「ARLISS 2025」へ出場した際の様子
(16ページに関連記事あり)

2025年11月号

目 次

◇ トピックス ◇

24時間滞在型フォトコンテスト「撮りフェス in 室蘭」でものづくり基盤センターを プレミアムスポットとして開放	1
電子決裁システム「Shachihata Cloud」操作説明会を開催	2
リケジョのキャリアスタートアップを開催	3
室蘭市立みなと小学校の4年生が本学を訪問	4
「世界のトップ2%の科学者」に本学から4人がランクイン	5
令和7年度9月期学位記授与式を挙行	6
日本マイクログラビティ応用学会 第37回学術講演会の開催	7
本学学生がChitose International Forum on Science & Technology 2025 (CIF25) においてBest Poster Awardを受賞	9
令和7年度10月期入学宣誓式を挙行	10
「HOKUDAI × Microsoft Copilot DAY Summer 2025」に本学職員が登壇	11
「Microsoft 365 Copilot勉強会～in MS Base Nishi-Umeda～」に本学職員が登壇	12
室蘭市立星蘭中学校の2年生が本学を訪問	13
室蘭工業大学教育・研究振興会へのご寄附に対する感謝状贈呈式を挙行	14
本学にOptica（米国光学会）Student Chapterが設立	15
本学留学生が北海道室蘭東翔高校書道部の生徒と交流	16
室蘭工業大学公認サークルSARDが国際大会「ARLISS 2025」にてBest Mission Award 第3位を受賞	17
室蘭市立翔陽中学校の1年生が本学を訪問	18
第7回地域オープンイノベーション拠点選抜制度に選抜	19
THE世界大学ランキング2026で1501+位にランクイン	20
エンジニアリング・カフェ in 室蘭工業大学を開催	21
中国科学技術部による日本の若手科学技術関係者招へいプログラム（浙江省）参加報告	22

◇ 外部資金 ◇

民間等との共同研究の受入れ	25
他の補助金の受入れ	26
奨学寄附金の受入れ	27

◇ 人 事 ◇

人事異動	28
------	----

◇ 会 議 ◇

学内各種委員会等の開催	29
-------------	----

◇ 日 誌 ◇

学内行事・学外行事	30
-----------	----

◇ 人物図鑑 ◇

室蘭工業大学人物図鑑 part.35～36	31
-----------------------	----

トピックス

24時間滞在型フォトコンテスト「撮りフェス in 室蘭」で ものづくり基盤センターをプレミアムスポットとして開放

令和7年9月21日(日)、24時間滞在型フォトコンテスト「撮りフェス in 室蘭」(主催:撮りフェス in 室蘭実行委員会 後援:室蘭工業大学他)内のイベントにおいて、室蘭工業大学ものづくり基盤センターがプレミアムスポットとして開放され、札幌市や室蘭近郊をはじめ、道外からの参加者も含めて、約30名の皆さんに来場いただきました。

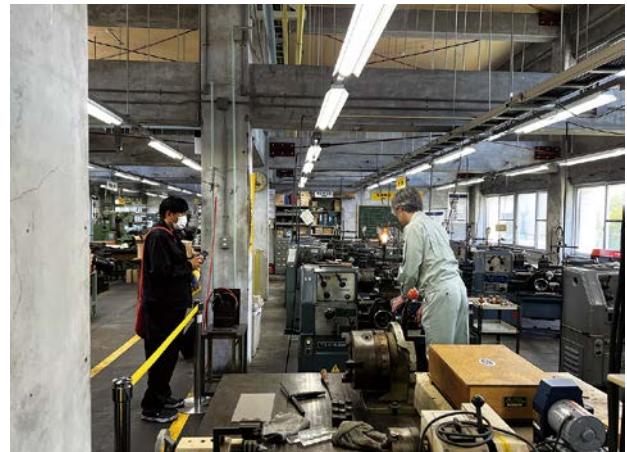
ものづくり基盤センターでは、鉄の溶解を間近で体験できる見学や旋盤加工の技術を知っていただくための実

演を行いました。参加者は、鉄が約1538℃の高温で液体になる様子を、実際の炉を使って見学いただき、炉から流し込む瞬間を撮影しておりました。

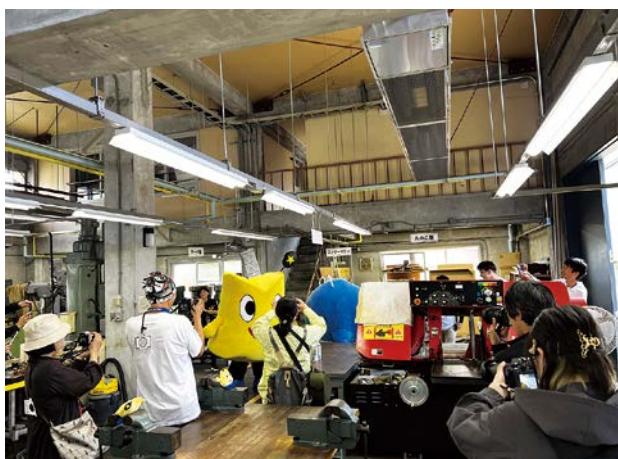
また、撮りフェスの同時企画として「くじらんを探せ！」が行われ、ムロぴょんと室蘭市の公式キャラクターくじらんがものづくり基盤センターを訪れ、キャラクターたちとの記念撮影など笑顔あふれるひとときとなりました。



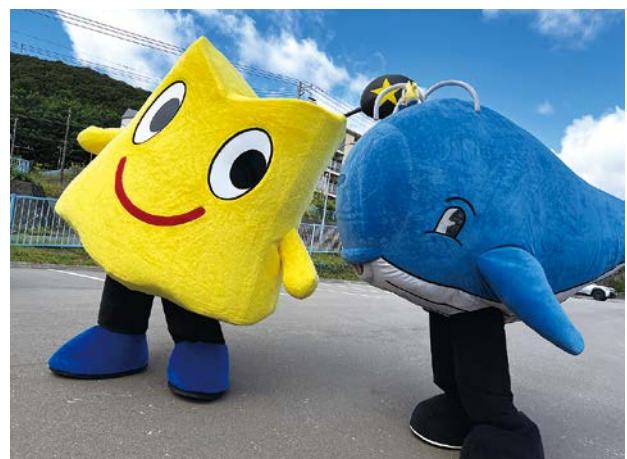
迫力、熱さで炉に近づけない参加者



職人の技、旋盤実演に魅入る参加者



室蘭を代表するマスコットの登場に歓声が沸く



ムロぴょんとくじらんのツーショット

電子決裁システム「Shachihata Cloud」 操作説明会を開催

令和7年9月3日(水)および4日(木)に業務のペーパーレス化・ハンコレス化を推進する取り組みの一環として、電子決裁システム「Shachihata Cloud」の操作説明会を開催しました。

会場は本部棟3階の大会議室で、初日は役員向け、2日目は事務職員向けに説明会を開催しました。2日目はオンラインでも同時配信を行い、64名の事務職員が参加しました。

この説明会は、デジタル・キャンパス推進室 働き方改革・業務改革タスクフォースの主催により、本年11月からの本格運用開始に向けて実施されたもので、電子決裁システムの導入により、決裁の流れを可視化し、業務のスピードアップや文書検索の効率化を図ることを目的

としています。

当日は、システム画面の構成、起案・承認の操作手順、そして今後のスケジュールなどについて、資料を用いて詳しく説明が行われました。

参加者は実際の操作画面を見ながら基本的な操作方法を確認し、導入後の業務イメージを具体的に掴むことができました。

今後は試行期間を経て、各課・室の準備状況に応じて、11月から本格運用が開始される予定です。

本学では今後も、デジタル技術を活用した業務改革を推進し、より効率的で柔軟な働き方の実現を目指してまいります。



説明をする田嶋室員と三林室員



役員向け説明会の様子

目次	1
1.目的とシステム概要	
2.ログイン方法・対象データ	
3.起案の操作	
4.承認の操作	
5.決裁完了後の操作	
6.検索の操作	
7.今後のスケジュール	
8.ヘルプサイト・FAQ・問合せ方法	

当日のアジェンダ

リケジョのキャリアスタートアップを開催

令和7年9月20日(土)に、北海道庁と共に札幌日本大学中学校・高等学校において、リケジョのキャリアスタートアップ「見て、聞いて、作って知る！理系の未来と私の可能性」を開催しました。

このイベントは、本学が実施しているJST女子中高生の理系進路選択支援プログラムの一環で実施しました。本学からは、第1部の理系のリアル進路トークタイムで、花島副学長による「社会で求められるリケジョの現状」

に関する講演と、「リケジョが語る、キャンパスライフの本音」と題した対談にて花島副学長と博士後期課程1年的小笠原日向子さん、学部3年の松浦奈那実さんが登壇し、女子中高生27名のほか、そのご家族や北海道議会議員などが参加しました。

本学は、このような取組みを通じて、理工系の進路を選択する女性が増えることを目指してまいります。



花島副学長による講演の様子



対談の様子

室蘭市立みなと小学校の4年生が本学を訪問

令和7年9月19日(金)及び22日(月)に、室蘭市立みなと小学校4年生の児童71名と引率の教員4名が、「令和7年度室蘭ふるさと学習」の一環として本学を訪れました。

一行は、本学ものづくり基盤センターにおいて、もの

づくり技術についての説明を受けた後、教員やセンターのスタッフの指導のもと、鋳造技術を用いたキーホルダーを作成しました。

室蘭工業大学が誇るものづくりについて、短い時間でしたが、一生懸命勉強されていました。



シリコンシートを使って、キーホルダーの鋳型を作成する様子



鋳型に溶かしたスズを流し込む様子



楠本准教授による説明（4年1組）



楠本准教授による説明（4年2組）

「世界のトップ2%の科学者」に 本学から4人がランクイン

令和7年9月19日、米国スタンフォード大学(Stanford University)とエルゼビア社(Elsevier)が更新した世界のトップ2%の科学者を特定する包括的なリスト「標準化された引用指標に基づく科学者データベース(更新版)」で、本学から「生涯」区分で4名、「単年」区分で2名、重複を除くと計4名の研究者がランクインしました。

当リストはScopusの情報に基づき、22の研究分野と174のサブ分野で少なくとも5編の論文を発表している科学者を対象として分析。総被引用回数(自己引用を除く)、h-index、単著論文数、個別引用論文数などの複合的指標により評価されました。

「生涯」(career-long) 区分：4名 ※公表データ順

古賀 俊勝(名誉教授)

董 晃雄(副学長、しくみ解明系領域・教授)

城谷 一民(名誉教授)

太田 香(コンピュータ科学センター長、しくみ解明系領域・教授)

「単年」(single recent year) 区分：2名

※公表データ順

董 晃雄(副学長、しくみ解明系領域・教授)

太田 香(コンピュータ科学センター長、しくみ解明系領域・教授)

[エルゼビア\(Elsevier\)ウェブサイト](#)

令和7年度9月期学位記授与式を挙行

令和7年9月24日(水)に本部棟大会議室において、令和7年度9月期学位記授与式を挙行しました。

学位記授与式では、理 工 学 部 学 士 課 程 6 名、大 学 院 博 士 前 期 課 程 7 名、大 学 院 博 士 後 期 課 程 14 名 の う ち 、理 工 学 部 学 士 課 程 4 名、大 学 院 博 士 前 期 課 程 6 名、大 学 院 博

士 後 期 課 程 12 名 が 出 席 し ま し た。

関 係 教 職 員 列 席 の 中 、松 田 瑞 史 学 長 か ら 、一 人 ひ と り に 学 位 記 が 授 与 さ れ た 後 、お 祝 い の 挨 捶 が あ り 、閉 式 と な り ま し た。



日本マイクログラビティ応用学会 第37回学術講演会の開催

日本マイクログラビティ応用学会（会長：渡邊匡人教授／学習院大学）による第37回学術講演会（JASMAC-37 実行委員長：今井良二教授／航空宇宙総合工学ユニット）が、令和7年9月11日(木)～13日(土)にかけてFKホールディングス生涯学習センターきらんにて開催されました。

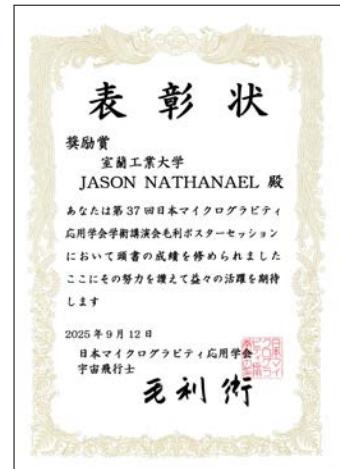
最終日の9月13日(土)には、公開講座「SPACE FESTIVAL IN MURORAN」が開催されました。



奨励賞を受賞したJASONさん（左）・毛利氏（右）

【日本マイクログラビティ応用学会 第37回学術講演会】

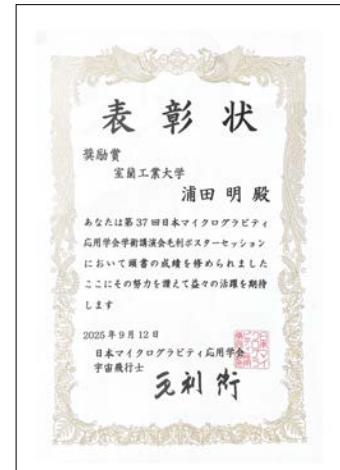
毛利衛氏（日本人初の科学者宇宙飛行士）が審査する学生向けポスターセッション「毛利ポスターセッション」にて、本学大学院生のJASON NATHANAELさん（航空宇宙総合工学コースM2）と浦田明さん（航空宇宙総合工学コースM1）が奨励賞を受賞しました。



表彰状



奨励賞を受賞した浦田さん（左）・毛利氏（右）



表彰状

トピックス

2日目の9月12日(金)は、特別企画IVで「世代を超えたプロジェクトマネジメント対談」として、本学の学生サークルSARDの高岩琥太郎さんと原航陽さん（ともに航空宇宙工学コース2年）がSARDでの取り組みについて講演し、留目一英氏（技術者・元有人宇宙システム株

社長）が主に衛星開発からのLessons learnsについて講演、その後主としてプロジェクトマネジメントについてパネルディスカッションを行いました。毛利衛氏等から質問や有益なアドバイスを頂きました。



パネルディスカッションの様子



質問をされる毛利氏

【公開講座 SPACE FESTIVAL IN MURORAN】

公開講座では室蘭市内の小学校から大学生とそのご家族の方々が参加され、4名の講師から最新の宇宙分野の

最新トピックをご講演いただきました。本学からは内海政春教授（航空宇宙機システム研究センター長）からロケットに関するお話を頂きました。



SPACE FESTIVAL IN MURORANの様子



講演をされる内海教授

本学学生がChitose International Forum on Science & Technology 2025 (CIF25) において Best Poster Awardを受賞

令和7年9月4日(木)、5日(金)に千歳科学技術大学で開催された「Chitose International Forum on Science & Technology 2025 (CIF25)」において、本学大学院生 河野 豊広さんが行った研究発表に対して Best Poster Award が授与されました。

CIF25では応用化学、バイオ環境科学、情報通信技術、計算機科学を中心に幅広い分野の研究発表が行われました。その中から、厳正な審査のもと、優れた発表に対してBest Paper Award 1件、Best Poster Award 4件が授与されました。

【受賞内容】

CIF25 Best Poster Award

河野 豊広（波動エレクトロニクス研究室 大学院工学研究科博士前期課程情報電子工学系専攻電気電子工学

コース1年）

Chitose International Forum on Science & Technology 2025 (CIF25)
共同研究者：辻 寧英（もの創造系領域教授）、
井口亜希人（もの創造系領域助教）

【受賞コメント】

このたびは、Chitose International Forum on Science & Technology 2025 (CIF25) での発表でBest Poster Awardを受賞することができ、大変光栄に思います。今回の受賞は、日頃よりご指導いただいている先生方や研究室の皆のおかげです。誠にありがとうございます。今後も光エレクトロニクス技術への理解を深め、より一層努力してまいります。



Best Poster Awardを受賞した河野豊広さん

令和7年度10月期入学宣誓式を挙行

令和7年10月1日(水)に本部棟大会議室において、令和7年度10月期入学宣誓式を挙行しました。

10月入学については、大学院における入学時期の拡大を図るため、博士後期課程は平成19年度から、博士前期課程は令和2年度から実施しているもので、今年度は大学院博士前期課程に5名、大学院博士後期課程に17名の

あわせて22名が入学しました。

式には新入生22名のうち15名が出席し、関係教職員が列席するなか、松田瑞史学長から新入生に激励とお祝いの言葉が述べられ、次いで新入生を代表して山田さんが宣誓を行い、閉式となりました。



「HOKUDAI × Microsoft Copilot DAY Summer 2025」 に本学職員が登壇

令和7年8月26日(火)、北海道大学にて開催された「HOKUDAI × Microsoft Copilot DAY Summer 2025」において、本学デジタル・キャンパス推進室の齊藤室員が登壇し、本学におけるMicrosoft Copilotの活用事例について発表を行いました。

本イベントは、北海道大学が主催し、生成AI「Microsoft Copilot」の活用方法を学ぶことで業務の効率化を図ることを目的として企画されたものです。対面とオンラインのハイブリッド形式で開催され、多くの大学等関係者が参加していました。

本学からは、「室蘭工業大学におけるCopilot活用事例」と題し、Copilotエージェントの具体的な活用方法や、これまでのDX推進の取り組みについて紹介しました。

また、イベント終了後には、北海道大学DX業務推進室の皆さまと、今後の生成AIの活用やDX推進に関する意見交換を行い、事務業務の高度化に向けた知見を深める貴重な機会となりました。

今後も本学では、生成AIの活用をはじめとしたデジタル・キャンパス化の推進に積極的に取り組んでまいります。



齊藤室員の発表の様子

「Microsoft 365 Copilot勉強会～in MS Base Nishi-Umeda～」に本学職員が登壇

令和7年9月11日(木)、Microsoft Base Nishi-Umedaにて開催された「Microsoft 365 Copilot勉強会（主催：株式会社ピーエスシー）」において、本学デジタル・キャンパス推進室の齊藤室員が登壇しました。

本勉強会は、株式会社ピーエスシーによるCopilotを活用した業務効率化やセキュリティ対策についての紹介、日本マイクロソフト株式会社による最新機能の解説、大阪経済大学によるボトムアップ型のDX事例の紹介など、多彩な内容が展開されました。

続いて、日本マイクロソフト株式会社・大阪経済大学・室蘭工業大学による対談が行われ、本学からは齊藤室員が登壇し、Copilot導入のきっかけや導入時の課題、新機能への対応など、本学における取り組みについて紹介しました。

勉強会終了後にはネットワーキングの時間が設けられ、

参加者の皆様と意見交換・情報共有を行うことができ、大変有意義な機会となりました。

今後も本学では、生成AIの活用をはじめとしたデジタル・キャンパス化の推進に積極的に取り組んでまいります。

－当日のアジェンダー－

「Copilotで実現する業務効率化とセキュリティ対策の最前線」（株式会社ピーエスシー）

「Copilot最新機能アップデート」（日本マイクロソフト株式会社）

「現場発！みんなで育てるボトムアップ型DX」（大阪経済大学）

「ユーザー×Microsoft対談セッション」（大阪経済大学×室蘭工業大学×日本マイクロソフト株式会社）



ユーザー×Microsoft対談セッションの様子

室蘭市立星蘭中学校の2年生が本学を訪問

令和7年10月1日(水)に、室蘭市立星蘭中学校2年生の生徒30名と引率の教員4名が、「令和7年度室蘭ふるさと学習」の一環で本学を訪れました。

一行は、本学ロボットアリーナにおいて、ロボットアリーナスタッフの指導のもと、パソコンソフトを駆使しながら3Dプリンタで自分の名前入りのムロびょんキー

ホルダーを作成しました。

その後、花島直彦教授から、本学に関する説明と本学が取り組んでいるJST女子中高生の理系進路選択支援プログラムについての説明を聞きました。パソコン作業に悪戦苦闘しながらも、キーホルダー作りに励んでいました。



スタッフの説明を聞く様子



パソコンを使ってモデリング作業の様子

室蘭工業大学教育・研究振興会へのご寄附に対する 感謝状贈呈式を挙行

令和7年9月25日(木)に、本部棟3階小会議室において、本学に多額のご寄附を賜りました本学同窓生 武藤征一様に対して、感謝状贈呈式を挙行しました。

感謝状贈呈式では、松田学長より感謝状が手渡され、贈呈式の後には、本部棟1階に設置されている銘板のお披露目会が行われました。

今回いただいたご寄附は、経済的理由により修学が困難な学生等を対象とした「学生等修学支援事業」に活用させていただきます。

国立大学法人室蘭工業大学教育・研究振興会は、室蘭

工業大学の理念・目標の達成を目的とし、室蘭工業大学の教育・研究の発展に資するとともに、地域及び我が国の経済・社会文化の発展に寄与することを目的として、平成17年に設置しました。

ご支援に対して改めて心より感謝の意を表すると共に、今後も室蘭工業大学にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

・教育・研究振興会については[こちら](#)

・本学への寄附については[こちら](#)



松田学長（左）と武藤様（右）



特定寄附者顕彰銘板前にて

本学にOptica（米国光学会）Student Chapterが設立

本学の「MuIT Optica Student Chapter」の設立が米国光学会（Optica）本部により正式に承認されました。同学会は光学に関する世界最大の学会で、100を超える国に約22,000人の会員を有しています。Opticaは光の研究に関わる研究室や大学、さらには国を超えた学生間の交流を支援するため、一定の基準を満足する団体にStudent Chapterの設置を認め、様々な支援を提供しています。現在、国内でOptica Student Chapterの設置が認められているのはまだ11大学のみで、北海道では唯一のOptica Student Chapterです。名称を「MuIT Optica Student Chapter」として今年度設立が承認されました。

https://www.optica.org/get_involved/students/student_chapters/student_chapter_map

MuIT Optica Student Chapterでは、「光学」をキーワードに、学生同士のネットワークの構築、勉強会の開催、研究室配属前からの研究活動の支援など、室蘭工業大学の学生の学びを支援する、学生を中心の団体です。また、分野・世代を超えて多くの人に「光学」を知ってもらうためのイベントを地域や大学と連携して開催する予定です。

これから一緒に活動してくれるメンバーを増やしたいと考えていますので、光科学に少しでも興味のある方は、下記のホームページからお気軽にご連絡ください。

<https://sites.google.com/view/muit-optica-student-chapter>



MuIT Optica Student Chapter設立メンバー・代表の
博士後期課程2年松林大輝さん（前列中央）

本学留学生が北海道室蘭東翔高校書道部の生徒と交流

令和7年9月25日(木)に、本学留学生4名が、北海道室蘭東翔高校書道部の生徒4名と交流しました。

同校書道部の生徒が先生となり、本学留学生に丁寧に筆の持ち方や文字の書き方を教えていました。

留学生は自分の好きな漢字を何度も練習し、最後に色紙に清書しました。留学生は、高校生と日本文化を通して有意義な交流を楽しみました。



高校生に書き方を教わる留学生



書道部の皆さんと留学生の集合写真

室蘭工業大学公認サークルSARDが国際大会「ARLISS 2025」にてBest Mission Award 第3位を受賞

令和7年9月、米国ネバダ州のブラックロック砂漠において行われた国際大会「ARLISS 2025」に、[室蘭工業大学公認サークルSARD](#)が出場し、Best Mission Award 第3位を受賞しました。

ARLISS (A Rocket Launch for International Student Satellites) は、アメリカのネバダ州にあるブラックロック砂漠で毎年9月に開催されるCanSatのサブオービタル（大気圏内）打ち上げ実証実験です。国内外から大学生を中心に参加しており、アマチュアロケット団体 (AeroPAC) の協力のもとCanSatを打ち上げ、様々なミッションを行います。競技会としての側面もあり、CanSatをゴールまで正確に制御したチームに送られる“Accuracy Award”や優れたミッションに送られる“Best Mission Award”などの賞が設けられています。

〈ARLISS 2025 参加メンバー〉

高橋 虹太郎 理工学部創造工学科 航空宇宙工学コース
3年 (PM)
神岡 凜星 理工学部創造工学科 建築土木工学コース
3年 (機体班・回収班)
榎 純弥 理工学部創造工学科 航空宇宙工学コース
3年 (電装班)
藤田 惟斗 理工学部創造工学科 1年

今回受賞した賞は、3年前にも同サークルの10期メンバーが、第2位を受賞しています。

[\[ARLISS 2022\] にて Best Mission Award 第2位を受賞しました](#)



室蘭市立翔陽中学校の1年生が本学を訪問

令和7年10月8日(水)に、室蘭市立翔陽中学校の1年生11名と引率の教員1名が「令和7年度室蘭ふるさと学習」の一環で本学を訪れました。

一行は、本学ロボットアリーナにおいて、ロボットアリーナスタッフの指導のもと、パソコンソフトを駆使しながら3Dプリンタで自分の名前入りのムロびょんキーホルダーを作成しました。

その後、花島直彦副学長から、本学の概要紹介と本学が取り組んでいるJST女子中高生の理系進路選択支援プログラムについての説明を受け、生徒の皆さんからは「大学の先生の仕事の内容を教えてください。」といった質問もあり、初めての体験でしたが、終始笑顔で、楽しみながら取り組んでいました。



スタッフに質問しながら作業を進める様子



花島副学長に質問している様子

第7回地域オープンイノベーション拠点選抜制度に選抜

令和7年10月21日(火)に本学のクリエイティブコラボレーションセンター(CCC: The Center for Creative Collaboration)(以下「CCC」)が第7回地域オープンイノベーション拠点選抜制度に選抜されました。

地域オープンイノベーション拠点選抜制度(J-Innovation HUB)(以下「Jイノベ」)は、経済産業省が推進する产学連携施策であり、大学等を中心とした地域イノベーション拠点の中で、企業ネットワークのハブとして活躍している産学連携拠点を評価・選抜することにより、信用力を高めるとともに支援を集中させ、トップ層の引き上げを促すことを目的としています。

今回本学から選抜されたCCCは、情報分野と他分野の融合により高いレベルで地域の問題解決と発展に資するとともに、学内外の協働研究を通じ長期ビジョン『北海道MONOづくりビジョン2060』(https://muroran-it.ac.jp/mono_vision)で描いた持続可能で豊かな社会の実現を目指す組織として、地域に寄り添ったニーズオリエンテッドな課題解決/地域振興プロジェクトを、産官学民の異分野融合/学際体制で推進し、社会変革につながるイノベーションの創出を目指しております。

CCCは、平成30年に社会連携統括本部 地域協働機器センターの下、2ラボ体制でスタートしました。令和2年には、情報分野をはじめとする多様な専門領域を網羅する8ラボ体制へと拡充し、ラボの統廃合や新設を柔

軟に行いながら、社会の変化や地域のニーズに応じた機動的な組織運営を展開しています。

現在CCCでは、室蘭市、白糠町、伊達市、三笠市において、現地に研究者と拠点を設置する「土着型プロジェクト」を推進し、持続可能な地域社会を地域と共に作る取り組みを進めています。

Jイノベの拠点として、今後もさらなる地域との共創、地域イノベーションの拠点として活動を進めて参りますので、ご協力、ご支援の程よろしくお願ひいたします。

《参考》

○第7回Jイノベ公表に関する経済産業省HP

https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/j-innovation_7.html

○クリエイティブコラボレーションセンター(CCC: The Center for Creative Collaboration)について
<https://muroran-it.ac.jp/academic/research/ccc/>

《内容に関するお問い合わせ》

室蘭工業大学クリエイティブコラボレーションセンター長 徳樂 清孝

TEL: 0143-46-5721

E-mail: tokuraku@muroran-it.ac.jp

THE世界大学ランキング2026で1501+位にランクイン

令和7年10月9日(木) タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(Times Higher Education)が世界大学ランキング2026を発表し、室蘭工業大学は1501+位にランクインし、北海道地域では、北海道大学、札幌医科大学についてランクインしました。

<https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/latest/world-ranking>

世界大学ランキングは世界の大学を「研究力」を主な指標として、Teaching(教育)、Research Environment

(研究環境)、Research Quality(研究の質)、Industry(産業)、International Outlook(国際性)の観点から評価するもので、International Outlook(国際性)の分野にて国内のランクインした115大学中19位という高い評価を得ています。

室蘭工業大学は、『真なる探究心から未来の価値づくりを。』をキャッチコピーとして、延べ40,000人余の同窓生の活躍を実績として教育改革を進め、地域にそして世界に貢献できる理工系学生の育成に邁進します。



エンジニアリング・カフェ in 室蘭工業大学を開催

令和7年10月17日(金)、エンジニアリング・カフェ in 室蘭工業大学（主催：日本工学アカデミー北海道支部、室蘭工業大学）を本部棟大会議室及び白老実験場で開催し、日本工学アカデミー北海道支部会員8名が参加をしました。また、今回は本学と高大連携に関する協定を結んでいる北海道室蘭栄高校の理数科1年生（80名）が「理数探究」の授業の一環としてエンジニアリング・カフェに参加をしました。

エンジニアリング・カフェの第1部では、本学の航空宇宙機システム研究センター長 内海政春 教授が「拡大する宇宙への挑戦と北海道の宇宙未来像」と題した講演を行いました。講演後の質疑応答において、栄高校の生徒から「ロケットの実験ではたくさんの失敗があると思うが、そのトラブルはどのくらい予想できるのか？」との質問に対し、内海教授は「ロケットの実験では、事前にさまざまなトラブルを想定し、シミュレーションや過

去のデータをもとに対策を講じています。しかし、実際の現場では予想外の事態が発生することも多く、失敗から学ぶことが非常に重要です。」と回答、その後も活発な質疑応答が続き、生徒らは宇宙開発の最前線で活躍する研究者と交流する貴重な機会となりました。

その後、場所を本学白老実験場に移動し行われた第2部では、本学の航空宇宙機システム研究センター 中田大将 准教授及び所属の学生らから白老実験場での研究概要、施設の役割などの説明を受けた後、ロケットストレッド試験を行う300m軌道での燃焼実験を見学しました。栄高校の生徒らは「ロケット開発の燃焼実験は迫力があった、宇宙工学を学べる大学も視野のひとつしたい」といった感想が寄せられました。白老実験場の見学を通じて、研究現場で活躍する大学生や教員から直接説明を受けることで、宇宙工学やものづくりの現場に対する理解がより深まった様子でした。



内海教授の講演に耳を傾ける室蘭栄高校の生徒たち



白老実験場での研究概要、施設の役割などの説明を受ける生徒たち



白老実験場の設備などの説明を受ける
日本工学アカデミー会員の皆様



白老実験場の実験棟見学の様子

中国科学技術部による日本の若手科学技術関係者 招へいプログラム（浙江省）参加報告

ひと文化系領域 教授 伊藤 弘子

1. はじめに

中国科学技術部が主催して毎年実施している交流プログラムに参加し、2025年10月10日(金)から15日(水)まで中国浙江省杭州、寧波および舟山市のロボット関連企業や大学サイエンスパーク等を訪問して参りましたのでご報告いたします。

日本科学技術振興機構（JST）のさくらサイエンスプログラム（国際青少年サイエンス交流事業）においても、中国を含む多くの国を対象として様々な交流プログラムを実施し日本に専門家を招聘していますが、今回参加させていただいた中国科学技術部も同様に諸国から研究者や専門家を招聘しており、日中間については両プログラムが呼応しあって相互的に受け入れと送り出しをして人的交流が進められてきました。コロナ禍の中止を経ながら実績を重ね、2025年度は浙江省、遼寧省、山東省、四川省および河南省の5コースが実施されており、私が参加した浙江省コースには9名が参加しました。



(写真1 および2) 杭州全智能技術研究院において浙江省の研究や产学連携の説明を受ける

2. 浙江省概要

浙江省は長江デルタ南翼の東シナ海に面した沿岸地域にあり、日本からは上海空港から入国すれば高速鉄道または高速道路での交通アクセスが至便な地域にあります。省都の杭州は中華文明の発祥地の一つとされていますが、いわゆるシルクロードの終着点でもあり綢産業で知られているほか、仏教の曹洞宗と臨済宗にも深い関わりがあるそうです。近年は杭州の人口が1,000万人を越し、科学技術の研究と技術進展を非常に強力に推し進め、オンラインマーケットのアリババ・グループ、オープンソースの大規模言語モデルの開発をしたDeepSeek（ディープシーク）をはじめとする著名なIT関連企業が設立された場所としても注目されています。

3. 訪問内容

今年度催行された5つのプログラムの中でもこの浙江省を対象とした日程では、ロボット関連企業や展示館、ゴミ処理

トピックス

場や大学サイエンスパーク等を訪問する行程が組まれていました。

視察の初日は杭州市の旧ゴミ埋立場と清掃センター（分別・処理と焼却）を視察しました。これらの施設がある天使嶺地区は、従来は生ゴミや紙屑の埋立地として使用されていましたが、2019年から杭州市で生ゴミ（腐敗しやすい物）、有害物（医療廃棄物等）、資源ゴミ、その他（タバコの吸殻やペットの糞尿等）の4種に分類し、分別回収が始まったことを受けて、新規の埋め立ては行われていないそうです。一般的な中国の人々は団地に居住するそうですが、杭州市では毎週特定の曜日に団地敷地内のステーションへ各家庭で分別したゴミを持ち込むことが義務付けられ、ゴミの種別毎に異なるゴミ袋が世帯の人数に合わせて配布されるそうです。この他に団地敷地内にはリサイクル業者の回収所も置かれており、ペットボトルや缶、新聞紙等を住民が持ち込んだり電話で引取回収を依頼すること、家電は通常買い替え時に下取りか、大型家電のリサイクル業者に処分を依頼することになっていることなどの説明もありました。

浙江省が環境保護を訴え、埋立処理を中止しゴミの分別・回収を進めるようになったきっかけとして、上海万博（2010年）や杭州で開催されたアジア競技大会（2022年）もさることながら、21世紀になってSNSによる住民の抗議運動が活発になったこともあるだろうと言われました。見学した天使嶺地区の旧埋立場は、その安定化をめざして検証を続けつつ緑化が進められ、公園や環境保護について学べる視聴覚施設を備えた図書館が設置されています。図書館の読書スペースには廃材を利用した机や椅子が置かれており、学生や一般の利用者が読書をしていました。バスから見える街並みや杭州市の中心にある繁華街では不法投棄やポイ捨ては見受けられませんでしたが、後述の杭州全智能技術研究院でドローンで撮影した映像として提示されていた画像には、川辺に不法投棄されたゴミが農業用地を逼迫している状況が映し出されており、どこの国においても市民の教育ないし意識改革のための地道な努力が必要であるものだと思いました。同様に旧埋立地の保全、焼却処理によるCO₂排出や大気汚染、そして不法投棄の問題は各国共通の課題ですが、団地のリサイクル業者が住民に持ち込まれた資源ゴミの重量を実際より軽く計量し買取金額を抑えようとするのを持ち込んだ高齢者が見抜いて「交渉」するのだという通訳さんの説明は、スマホのアプリで屋台の飲食物の支払いから役所でのパスポート発給申請まで電子化が急激に進んでいる中国でもなお残る、昔ながらの人々の生活を垣間見られた気持ちにしてくれました。



(写真3および4) 旧埋立場と団地のリサイクル業者

杭州市では大学・研究機関での科学技術研究への支援に加えて、優秀な大学卒業生や海外留学からの帰国者の定着と起業への支援体制が中国の他の地域に例がない手厚さであるとの説明を受けました。浙江大学、行政区人民政府が設立した杭州全智能技術研究院を中心とする産業パークは、地域のデジタル産業の発展に資するプラットフォームとして機能しています。杭州市および浙江省は大学の優秀な卒業生や海外留学からの帰国者に研究や起業支援を行い、中国では困難な戸籍登録地を登録する転入手続を簡素化し、オフィス用の物件情報提供も行うそうです。そのようなサポートを受けて急成長している企業の1つとしてスマート農業に特化している托普雲農社を訪問しました。同社はドローンやロボット犬での田畠管理や病害虫の発見と対策提示、農業分野に特化したLLMモデルでの情報提供等を実施し、導入希望する農家には地方自治体からの助成金が交付されるとの説明がありました。

杭州市内に2年前に設置された文三未来科技体验センターでは、杭州で生まれた「杭州六小龍」と呼ばれる六つの企業をはじめとするAI、ロボット工学やゲーム開発等の分野の企業の科学技術を人々が体験し、商品を購入することができ

トピックス

ます。音楽に合わせて踊る人型ロボットやロボット犬、バイオニック義手やパワーアシストスーツ等の説明を受けました。

杭州での視察を終えた後は、東（シナ）海側に移動し、寧波市のさらに郊外の群島港湾都市である舟山市で世界初のメガワット級系統連系を実現したLHD海洋潮流発電所を視察しました。地下25メートルの深度で設置されたタービンにより2017年から継続的に発電を行なっており、この技術をもとに九州地方の黒潮を利用した潮流発電を行えば、日本全国に電力を供給できるはずとのことでした。



(写真5および6) 文三地区の未来科技体験センターにおける杭州六小龍の紹介

4. おわりに

現地に赴いてから、杭州にはかつて大きな製鉄工場があり、その排煙と大型車の通行から引き起こされる大気汚染が重大な問題になっていたが現在は郊外に工場が移転したため改善されているとの説明を受け、室蘭市との共通要素を見つめたようで、改めて、このコースに参加することができて嬉しく思いました。1,000万人にもなるという杭州の住民数からしても、また社会主義国であるという点からも、杭州市と室蘭市が取りうる方針や手段は大きく異なりますが、高等教育・研究機関で育成された人材を、その周辺地域に定着し活躍し続けてもらい地域を活性化させていきたいという課題は共通です。帰国直後に本学の「だてプロ」が主催したシンポジウムに参加し、伊達市の農業における様々な取り組みに接しましたが、そのうちの1つとしてスマート農業技術の活用をしている農園が近く、伊達市で本格的に活動を開始すると聞き、杭州での状況につき情報交換をする機会も得られました。

最後になりますが、本プログラムでの視察の機会をいただいた中国科学技術部、浙江省科学技術庁、浙江省科技交流和人才服務センターそして日本科学技術振興機構の皆様、ならびに本プログラムへの推薦をしてくださいました本学の董冕雄教授に深く御礼申し上げます。

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額(千円)
もの創造系領域 教授 内海政春	中小企業	780
もの創造系領域 准教授 楠本賢太	中小企業	702
もの創造系領域 准教授 佐藤孝洋	大企業	500
しくみ解明系領域 教授 山中真也	大企業	3,000
しくみ解明系領域 教授 山中真也	中小企業	1,794
合 計(5件)		6,776

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

その他の補助金の受入れ

事業名	研究代表者・職・氏名	事業元	金額(千円)
官民による若手研究者発掘支援事業(マッチングサポートフェーズ)	しくみ解明系領域 准教授 李 鶴	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	2,562
合 計(1件)			2,562

奨学寄附金の受入れ

寄 附 者	目 的	金 額 (千円)
個人寄附者（1件）	工 学 研 究 助 成	150
株式会社オリエンタルコンサルタンツ	工 学 研 究 助 成	650
株式会社ドーコン	工 学 研 究 助 成	100
公益財団法人天田財団	工 学 研 究 助 成	3,000
太平洋セメント株式会社	工 学 研 究 助 成	500
日本データーサービス株式会社	工 学 研 究 助 成	300
合 計（6件）		4,700

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異動内容	氏名	現職
令和7年11月1日	〈辞職〉	野上 隼渡	学務課係員（教務企画係）
令和7年11月1日	〈採用〉 大学院工学研究科特任教授（もの創造系領域） 兼務：地域連携人材育成センター	岡田 昌樹	苫小牧工業高等専門学校 非常勤講師

学内会議

学内各種委員会等の開催

<9月25日～10月24日>

開催日時 令和7年9月30日(火)

会議名 第8回企画戦略会議

開催日時 令和7年10月7日(火)

会議名 第12回役員会

開催日時 令和7年10月8日(水)

会議名 第6回教育研究評議会

開催日時 令和7年10月9日(木)

会議名 第13回役員会

開催日時 令和7年10月14日(火)

会議名 第9回企画戦略会議

開催日時 令和7年10月16日(木)

会議名 第5回大学院工学研究科博士後期課程専攻長会

開催日時 令和7年10月21日(火)

会議名 第14回役員会

日 誌

学内行事

- 10月 1 日(水) 辞令交付
10月 1 日(水) 10月期入学宣誓式
10月 7 日(火) 第34回室蘭工業大学 蘭岳セミナー
10月17日(金) エンジニアリング・カフェ in 室蘭工業大学
10月23日(木) 次世代半導体とほっかいどうの未来 in 室蘭
10月24日(金) 札医大 医工連携セミナー

学外行事

- 10月 1 日(水) (株) 室蘭民報社創刊八十周年記念祝賀会 (室蘭市)
10月 3 日(金) 令和7年度 道内国公私立大学 学長懇談会 (札幌市)
10月15日(水) 国立大学協会理事会 (東京都)
10月18日(土) 第75回日本薬局協労会北海道合同支部室蘭大会開会式及び懇親会 (室蘭市)

室蘭工業大学 人物図鑑

室蘭工業大学に所属する教員・職員に
専門分野、業務内容、室工大の
Good Pointなどを聞いてみました。

- ①専門・業務内容
- ②室工大のGood Point
- ③室工大で好きなspot



Part
35

副学長・教授 市村 恒士



- ①ランドスケープ、都市マネジメント
- ②学生や教員が地域密着・実践的な活動を行
いやすい環境
- ③工大カフェ「TENTO」とその前庭（カフェを
立ち上げるプロジェクトにも関わっていました）また、研究室のある総合研究棟7号館（Y
棟）7階は、大学から太平洋、さらには恵山
のあたりまで一望できるビュースポットです

Part
36

准教授 小野 真嗣



- ①外国語教育・教育工学、海外協定校への留
学派遣。
- ②10、13、16万円の給付型「海外留学奨学金」
制度が充実！
- ③壁にMITの文字が書かれたN棟前広場（特に
桜の季節）

編集後記

◆ 秋が過ぎ、キャンパス内にはうっすらと雪が積もりました。朝夕の冷え込みとともに、空気が澄み、どこか背筋が伸びるような気持ちになります。

本学の良いところは?と聞かれると、「自然に囲まれた環境」と回答する方も多くいるのではないかでしょうか。四季折々の風景が学生や教職員の心を癒してくれます。

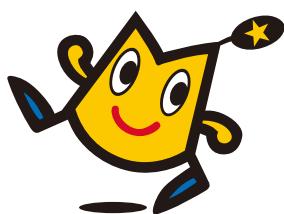
一方で、今年は全国的にクマの出没が相次ぎ、私たちの身近な場所でも注意が必要な状況が続いています。自然の恵みとともに暮らすということは、時にその“野生”と向き合うことでもあるのだと、改めて感じさせられます。

自然の豊かさに感謝しつつ、安全にも十分配慮しながら、日々の学びと生活を大切にしていきたいものです。



(Garoon : 総務広報課秘書広報係、E-mail : koho@muroran-it.ac.jp)

(総務広報課秘書広報係)



■編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5008
■印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308

室蘭工業大学のキャラクター「ムロピヨン」